

講義名	地域環境政策			授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

この授業は、国内・海外で実践されているいくつかの環境政策を概観し、政策の背景にある考え方を理解することを目的とします。環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまです。環境問題に関わる人たちがしばしば口にする“Think Globally, Act Locally”という言葉に象徴されるように、地域の問題を考える場合でも国際的な視野を持つことが求められるようになってきており、海外の事例に学ぶことが有益である場合も少なくありません。授業では統計などの数値資料を活用しながら環境問題の現状を客観的に理解するとともに、国内外の環境政策の潮流などについて解説・検討します。あわせて、多くの海外事例を紹介し、地域の環境問題への適用可能性を探っていきたいと思います。社会科学全般の視点から各種政策を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

到達目標

各受講生が、
 (1) さまざまな環境問題を理解するための基本概念を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて広い視野から主体的に考察できるようになること、
 (2) ローカルな環境問題の特徴を理解するとともに、グローバルな環境問題についても地域への影響を理解できるようになること、
 (3) 環境政策の手段として経済的手法の機能と役割を理解し、地域の環境問題の改善策を提案できるようになること、
 を目指します。

提出課題

中間課題として、期中にレポートを提出してもらいます。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を越えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

関連する科目に「都市環境論」があります（採り上げる事例などに一部重複する部分があります）。授業中の私語は禁止です。他の意欲的な学生にとって大きな学習行為となりますので、厳に備へてください（集中力を維持してください）。質問等で発言が必要な場合は挙手の上で行ってください。授業の履修にあたっては、授業内容をまとめる専用のノートを作成することをお勧めします。券をいとうず自分の手で書くことによって、自分が理解できていること、理解できていないことが明確になってきます。授業で扱う情報量は多くなると思います。必要な情報や知識がないと発展的に考えることもできません。自分の意見を形成し支えるための多くの情報や知識を得て、考えるための土台や枠組みを身につけたい学生向けの授業になります。

教科書

・特定の教科書は使用しません。

参考図書

・環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（令和3年版）	環境省	日経印刷	2,618	9784865792645
・新・地球環境政策	龍山康子	昭和堂	2,750	9784812210420
・グラフィック環境経済学	浅子和美・落合勝昭・落合由紀子	新世社	3,190	9784883842216

その他

担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料は RUKA Portal 経由で毎回配布します。参考図書に記載した「環境白書」は、環境省のウェブサイトから無料でダウンロード可能です（<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>）。授業では6月頃に刊行の「令和4年版」を主に参照する予定ですので、最新版を入手するようにしてください（過去の白書を参照することもありますので、その都度ウェブサイトを確認してください）。その他の参考図書は必要に応じて適宜授業中に紹介します。

授業計画

- イントロダクション： 授業のねらいや環境問題の背景について
- 環境をめぐる国内外の動き： 環境問題と環境政策の歴史、国際協働について
- 環境政策の考え方： 環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段について
- 環境と持続可能な発展： 持続可能な発展の考え方、発展途上国の開発・発展と環境について
- 環境と経済成長： 環境と貿易、環境クズネットワークについて
- エネルギー問題と環境政策（1）： エネルギー消費の現状と政策について
- エネルギー問題と環境政策（2）： 気候変動対策と経済的手段について
- 廃棄物管理政策： 廃棄物の現状と廃棄物問題の経済学的特徴について
- 循環型社会形成への取り組み： 市場を活用した資源有効利用について
- 企業行動と環境政策： 環境政策と企業の環境配慮行動について
- 金融と環境政策： ESG投資など金融を活用した環境改善の潮流について
- 都市・まちづくりと環境政策（1）： 低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
- 都市・まちづくりと環境政策（2）： 環境修復とまちづくり、グリーンインフラについて
- 生物多様性と環境政策： 生物多様性保全のための経済的手法について
- 環境と経済社会： 環境負荷の見える化、幸福度の考え方について

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、自分なりのイメージを持っておいってください（その上で授業に臨むこと）；約1時間/回。
 授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習してわからなかった点は質問してください）。復習では与えられた情報を要約したり分類整理したりして理解し、咀嚼して自分の血肉とすることが求められます（情報の要約や分類整理は勉強の基本です）；約1.5時間/回。さらに、毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください；約1.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、身近な課題を通じて理解できるようになり、さらに、地域社会で生活するさまざまな環境問題に関して、経済学を基盤とした改善策を提案できるようになります。これは、経済学部経済学系の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考